



2007年12月23日

いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの
平和講演会から

いま
私たちの国は
どこに向かっているのか②

前号につづいて、高橋哲哉先生のお話の要旨を紹介いたします（あと2号つづく予定です）。

美しい死を！

安倍前首相は、『美しい国』という本で、国家は「いのちをなげうっても守るべき価値」だと書いています。国民は、国家のために命を投げ出すべきであり、それが「美しい死」だということです。それは、安倍氏だけの考え



このような考えは、憲法を変えて、自衛隊を軍隊とし、日本が直接攻撃されなくても、同盟国（アメリカ）が攻撃されたら反撃すること（集団的自衛権を使うこと）ができるようにしようとしている

犠牲に耐えられる国民に

国民には、いざとなったら自分の命をなげうっても国を守る責任があるという考えがあらわれています。

靖国神社の政治的利用

「国を守る責務」を求める為政者は、靖国神社を政治的に使っていくとする動きを強めています。靖国神社が、戦死した兵士の功績をたたえることよって、進んで国家のため、天皇のために命をささげる兵士の精神をつくりあげる性格をもっているからです。「新憲法草案」は、政教分離

原則をゆるめて、首相などが靖国神社に参拝することを「社会的儀礼」だからと認めようとしています。また、麻生太郎氏が提唱する「靖国神社国営化論」は、最も危険なシナリオです。

高橋先生は、このような内容のお話をされましたが、講演の中で戦時中の靖国神社の様子を映した資料映像のビデオを見せてくださいました。

銃剣を抱えた何千もの兵士が靖国神社の境内を埋め尽くし、お祓いを受け、「天皇陛下万歳」を叫んで、行進していく姿が映っていました。それは、靖国神社が戦争のための神社であることを強烈に印象づける衝撃的な映像でした。

高橋先生は「靖国神社がこの映像のように利用される可能性がある」と警告されましたが、為政者が戦争の準備を進めていることへの危機感をさらに深くしました。